

9 研究の成果と課題

今回の研究実践では、「新たな価値を創造する力」の育成に向けて、「協働性」に焦点を当て、子供たちが友達と一緒に題材になりきり、全身の動きで表現できる学習活動を展開した。子供たちにとって身近なものや、関心が高く、具体的で特徴のある動きを多く含む題材を、チームの友達と一緒に表現する学習活動を繰り返すことによって、心と体を解き放ち、進んで表現しようとする態度を養うことができると考えた。

小学校第1学年1学期の発達の段階や指導内容、体力の状況等に十分に留意し、スタートカリキュラムや行事等との関連を図りながら単元を構成した。

活動中は、子供たちは一つの題材から複数の表現方法を生み出したり、新たな題材を見つけ出したりしながら、進んで表現活動に取り組んでいた。また、友達と一緒に表現することで、自信がもてない児童でも、安心して学習に取り組むことができた。どの子も表現することの楽しさに気づき、関心を高めることができたと考える。

一方で、個人では楽しく表現できていた子が、チームでの活動になったことにより、思うように表現できなくなった児童もいた。表現しやすいチームの編成や、子供同士が協力できる場づくりなどの工夫が必要だったと考える。

10 次年度への展望

低学年では、表現リズム遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、表現遊びとリズム遊びの両方の遊びを豊かに経験する中で、即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力、コミュニケーション能力などを育てるようにし、中学年の表現運動の学習につなげていくことが求められる（図1）。

今回の実践をもとに、「進んで表現しよう」「みんなと一緒に表現するって楽しいな」など、学びを役立てる子供の姿を目指したい。体育だけでなく、国語や音楽などの教科や、桐の子発表会などの行事等とも関連しながら、表現の多様性や学校生活への活用を図りたいと考える。

「新たな価値を創造する力」を育成するためには、そのための、「土台づくり」が必要であると考えられる。「本校で目指す子供の姿」を踏まえながら、各学年で行う「表現運動系」の学習を積み重ねた子供が、どのような姿になることを目指すのか、を共有し、そのための「土台づくり」をどのように行っていく必要があるのか、今後検討し、実践していきたい。



図1 本単元: 表現リズム遊びの構想図